



やあ!特集 ホームステイ

- とちぎでくらして… フェレイドン カレギャランさん(イラン)  
ようこそとちぎへ 県国際交流員 洪 周敏さん(中国)  
あんな店こんな店 ロシア料理レストラン「梨美奈」  
心に残る私の写真 ガーナ 大越睦子さん  
国際理解への扉 「そして世界は広がった」



アメリカといえば映画館でよく食べるポップコーンが有名ですが、今回ご紹介するのは、ジェリービーンズです。知ってるとか小さいころ食べたことあるなんて人も多いかも。実は、本国アメリカでは春に行われるイースターの時期だけで業界では160億個以上のジェリービーンズを生産しているくらいメジャーなお菓子なんです。

### フェレイドン カレギャランさん (39歳) Fereidon Karegaran



#### プロフィール

イラン・テヘラン出身。宇都宮在住。来日16年。現在は、居酒屋「写楽」を経営。日本人の奥さんとお子さん2人の4人家族。

ー初めてまして。日本語がかなりお上手ですが、日本は長いんですか？

フェレイドン そうですね。日本滞在は長いです。もう16年になりますよ。最初は、東京に住んで現場の仕事をしたりしていたんですが、その後、栃木のほうに来て転職というかいろいろ他の仕事を勉強のためにして、美容師だった妻と知り合って結婚し、今じゃ結構栃木人ですね。(笑) 日本語はもともとおしゃべりが好きだったので、自然にその中で覚えたって感じですね。あとは、妻との会話ですかね。家の中では日本語で、分からることがあると聞くと教えてくれるので。

ーそうなんですね。奥様は、日本の方ということですが、宗教上の違いとかはありませんでしたか。

フェレイドン 結婚後、1年半くらい、妻も、自分の出身のテヘランのほうで暮らしたんです。上の子はテヘランで生まれました。宗教に関しては、イランでは、結婚する時に改宗しなくてはならないのですが、妻がイスラムについての本やイスラム教にすごく興味を持ち勉強し、イランにはいろいろなモスクがあるので、あちこちのモスク巡りをしました。一番感動したのは、妻が朝、昼、晩とかかさずお祈りしたり、戒律を守ったことには感動しました。

### Report レポート ~企画展示室から~

#### JICA教師海外研修 in カンボジア

昨年、JICA教師海外研修に参加した4名の先生方の現地の様子と帰国後、児童たちにその様子を伝えたり、特別授業を行ったプログラムを写真や資料等に集めた展示を開催しました。

会場内にはクイズ形式でカンボジアに関する資料や写真から事物をあてるものやメール語で書かれた数字を当てるカンボジアコーナーも併設されています。また、陽東小学校で行われたカンボジアの写真を見て、その様子を児童たちが版画にした作品



▲実践中の廊下のカンボジアクイズ

ー現在、居酒屋「写楽」を経営されてることですが、始められたきっかけは何ですか。

フェレイドン 妻が美容師をしていましたということもあり、美容師をしようかとも一時は考えましたが、以前、居酒屋でアルバイトしていた経験があったのと、料理を作るのが好きということで居酒屋を選びました。居酒屋は自分ひとりで切り盛りしています。店が忙しい時には常連のお客さんが、手伝ってくれたりもするんで助かっていますよ。一人だと大変なこともありますが、ほかの人からあれやこれや指図をされないし、気楽っていうこともあります。メニューには、イランの家庭料理なんかを出してます。トマトを使ったシチュー料理は、日本の居酒屋のモツ煮や肉じゃがって感覚でお客さんからも結構好評ですよ。自分の趣味というか、時々、余興でマジックもやらせてもらっています。独学で覚えたんですが、お店でやるとみんなびっくりしますよ(笑)



▲モスクの前でポーズをとるお子さん

ーぜひ今度寄せてください。ほかにもいろいろな活動されているようですが？

フェレイドン 小学校等での国際理解活動も行っています。イランのことを話したり、低学年にはイランでは一番盛んなサッカーと一緒にやったりしていますね。イランの戦争の時の話をしたりすると、真剣に聞いてくれる子供はもちろんですが、話を聞きながら涙する先生方もいます。今までこういう活動をさせていただいて一番うれしかったのは、子供たちからの手紙をもらったことです。普段はこのような経験ができないので、なんともいえない感激がありますね。もし機会があれば、こういう活動は続けて行きたいと思っています。

このコーナーでは企画展示室で行われている催しを紹介します。

を展示したコーナーもあります。この展示は、5月いっぱい開催しています。

また、現地カンボジアでの研修の様子をDVD化した映像も放映しています。

この展示を見て興味をもち、今年度、参加してみようと思われた先生方には、今年度の教師海外研修のパンフレットも置かれています。児童たちにカンボジアという国をいかに理解させるか、また授業に生かす方法などを紹介したJICA国際理解教育実践セミナーの模様も7ページで紹介しています。



◀展示会場



▲アンコールワットを復元してみました



平成19年度  
栃木県国際交流員(中国担当)

洪 周敏 さん (25歳)  
Hong ZhouMin

—洪さん、はじめまして。日本語を専攻されたそうですが、日本語を学ぶきっかけは？

洪 金華市にある浙江師範大学で、4年間日本語を専攻し、現在、浙江省舟山市の岱山県外事弁公室で日本の造船企業との連絡業務や翻訳などを担当しています。私の趣味というか、小さいころから日本の漫画やアニメが好きで、特に名探偵コナンが好きだったので、オリジナルを読みたくて、日本語を学びました。でも日本語の敬語は難しいですね。中国語なら「請」をつければ敬語になるから。(笑)

—栃木県の印象はいかがですか？

洪 とてもきれいなところだと思います。そしてみんな親切ですね。私の故郷は舟山群島の中にある岱山島で舟山本島からフェリーで50分くらいのところにあります。同じ島国ということで日本人と同じように親切な人が多いですよ。栃木県は中国と比べると大気汚染がないですね。中国だと煙突から黒い煙が排出されますが環境問題に関し

ては日本はかなり進んでいると思います。先日も中国の温家宝首相が来日し、環境問題と先進技術は日本に見習わなければならないとおっしゃっていましたがまさにその通りだと思います。

—日本の食事はいかがですか？

洪 浙江省の人は塩辛いものを好んで食べますが、日本の食べ物は甘くて酸っぱいような感じがしますね。日本に来て感じたのは、日本のお弁当は栄養のバランスが取れているということです。私は海の近くで育ったのですが、実は魚が苦手なんです。刺身は食べられないんですよ。(苦笑)

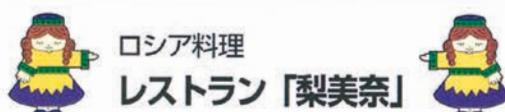
—これから一年間の日本での計画を教えてください。

洪 これから県庁の国際課で1年間お世話になりますが、私たちの世代は、一人っ子政策のピーク時に育ったので、自己中心的で日本の社会になじめるか心配はあるのですが、国際交流は、人と人との交流だと思うので、できるだけ多くの人と知りあいたいと思います。また、中国にいるときに、舟山市と友好関係のある気仙沼市からの小学生の短期交流のお手伝いをしたこともあるので、将来、日中の新しい関係に重要な役割を担って行く子どものためにも、ぜひ、日本の小学校での交流をしたいと思っています。



▲中国にいるご両親

## みんな店こんな店



### ロシア料理 レストラン「梨美奈」

市貝町の郊外の住宅地の中に聳え立つ洋風な建物が今回、ご紹介するロシア料理「梨美奈」。今年でオープンして8年目になるお店だが、益子町だと観光地化されてしまうということと隠れ家的なお店にしたかったというオーナーの考えでこの地に作ったそう。

お店のドアを開けるとウォッカなどと並んで、ロシアの民芸品マトリョーシカが飾られている。もちろんこれも気に入れば購入できる。

料理のほうも本格的。おすすめはボルシチ（ロシア風トマトスープ）、ピロシキ（ひき肉入りのパイ生地をフライにしたもの）、そしてシャシャリック（牛ヒレの短剣焼）。（写真はラム肉）

お店の名前から取った梨、美、奈の3コースがある。



▲おすすめのメニューから

もちろんロシアンティーも飲める。ロシアンティーはジャムを入れて飲むが、ブルガリアから輸入したバラジャムは特におすすめ。3種類のジャムを一つ選んで、紅茶に入れて飲むが、



▲本格的ロシアンティー



▲シックな店内

通の方は、スプーンにジャムを載せて、3つの味とも味わうとか。写真のロシアンティーのジャムはバラ、イヨカン、花梨エキスのジャムだが、時期によっても変わる。ロシアンティーとケーキのセットもある。（840円）また、手作りクッキーも販売されている（525円～）クッキーの味も変わるので、要チェック。ケールやそばクッキーなどがおすすめ。

レジ横では、手作りのライ麦の黒パンも売られている。ロシア料理に欠かせないディールとビーツは自家製という。

営業時間は午前11時半から夜10時まで、休憩時間はないので、好きな時間に食事が取れるのもうれしい。

店内には、小パーティーも行えるロングテーブルもあるのでぜひ利用してみては。

### レストラン「梨美奈」

営業時間 11:30~22:00  
定休日 月曜日  
住所 市貝町赤羽4323-13  
TEL 0285-68-0144  
HP [www.geocities.jp/ribina0725/](http://www.geocities.jp/ribina0725/)



こんにちは

Hello

# ホームステイ home-stay

ホームステイをこれからやってみようという人…  
そして実際にホストファミリーをしている人…

ほかの人たちはどのように受け入れているのか。

今回のやあ！特集では、ホームステイに注目し、経験者の方、団体の方に  
経験談やこれから始める人へのアドバイスを語ってもらいました。



工藤 美智子さん

(宇都宮市国際交流協会ホームステイ  
グループリーダー 宇都宮市在住)

## 困ったこと、悩んだことそしてよかつたこと

ホームステイを始めたのは、結婚して宇都宮に引っ越してきて、いくつら国際文化交流会会員になり、日本語の先生や外務省の青年招聘事業のホームステイの受け入れの活動を行ったのがきっかけです。当初、住んでいるところが宇都宮市内から離れているため、近所からいつも外国人を助手席に乗せて移動すると特にその人が男の人だったりすると周囲から視線を感じることもありました。別に悪いことをしているわけではないので、自分ではなんとも思ってませんでしたが。一番困ったのは、チュニジアの女性を受け入れた時に、学生でおしゃれに大変興味があり、日本で洋服を買いたいと言われ、一緒に買いに行き、「日本の洋服は高いのでお金があるの？」って聞いたところ、「カードで買うから大丈夫。」ということで一緒に買いに行ったまではよかったのですが、後日気に入らないということで返品してほしいといわれた時は、カード決済のため、大変苦労しました。逆によかつたのは、異文化理解ができる、自分にも子供が2人いたため、ホームステイの受け入れを通じて、子供の教育上、大変役に立ち、子供が大きくなつてから、歴史的なものや文化的なものに興味を持ったということもこのおかげだと感じています。うちの場合は主人

の理解もあったからではないかと思います。

## 普段着のまままで…

私の場合、数々の地域からの外国人を受け入れてきました。またその一方で、受け入れを通じて外国の習慣や日本との違いなども学ばせていただきました。

たとえば、言葉が通じないような時、英語がわかったり、日本語が少しでも理解できるような人だとよいのですが、そういう人ばかりとも限らないので、そういう時は、ジェスチャーや時には絵を描いたりしてコミュニケーションをとったりしたこともありますね。初めて受け入れる方やこれからホストファミリーを始める方にアドバイスしたいのは、構えないので、普段着のまままでやってみるということでしょうか。自分自身も、アメリカやフランスでホームステイをしたことがあります、その時にも感じたのは、お互いが緊張したりすると、変に構えたりすると打ち解けにくく、溝が深まるばかりですので、自分がホストになつたら、相手の方をお客様扱いするのではなくて、ごく普通の家族の一員として、自分の子供にさせているようなお手伝いなどもさせたりすると緊張も解けるし、相手のほうから近づいてくると思います。肩肘張らないで気楽に受け入れながら、国際理解についての経験も養われていくのじゃないかと思いますよ。



▲オーストラリアからの留学生らと



▲ガナ大使館の書記官と私の家族

## 宇都宮市 国際交流協会 担当者の声

### 石川アンナさん

宇都宮市の姉妹都市（フランス、ニュージーランド等）のホームステイの受入を担当。

宇都宮市では実行委員会方式で、受入事業を行っています。市民訪問団など、ホームステイでお世話になった学生が、今度は、ホスト役に回るなどして交流を行っています。

ホストファミリーの募集に関しては、宇都宮市の広報紙のほか、宇都宮市国際交流協会で2ヶ月に一度発行している「情報スクランブル」の中でも告知したりしています。

また、宇都宮市の国際交流協会では、このような活

動に関心のあるかた向けに登録をしていただき、ホームステイプログラム事業のある時に協力してもらっています。新規会員の方には、オリエンテーションも実施し、情報スクランブルを発送しています。実際には約50名くらいの会員の方が、さまざまなホームステイ事業の受け入れに協力していただいている。

また、これとは別に市内在住の留学生らを対象にした「ホームビジット」やイチゴ狩りなどの「ファームビジット」といわれる形式の交流も始めました。

当協会では、ホームステイをはじめて行う人のために、「ふだん着のまままで」というホームステイの手引書も作成し、配布しています。





## 桜井 一郎さん

(栃木県国際交流協会ホストファミリーパンク会員。宇都宮市在住)

### 夫婦の仲介役?

ホストファミリーは、もう16年くらいしています。ブルネイから来た青年2人を受け入れたのがはじめだと思います。ホームステイの受入をしてみようというきっかけになったのは、娘がイギリスに一ヶ月ほど短期留学をした時に、ホームステイをし、イギリスの方に大変お世話になったので、何かの形で恩返しができないかと思い、ホームステイを始めました。それともう一つは、夫婦二人でいるとけんかが絶えないので、第3者がいたほうがいいというのも理由なんですよ(笑)。最初、受入を始めたころは、娘の体験談を参考にしました。イギリスで娘がホームステイをした時、日本語を話す人もいなかったということを耳にしていたので、自分が受け入れる時も純日本式の生活を楽しんでもらおうということで、外国人が不得手と思われるような、こんにゃく、梅干し、納豆を出したりもしました。また、国によっても習慣も違うとは思いますが、お風呂の入り方の知らない外国の方もいて、お風呂の栓を抜かれたりしたこともありました。また、ホームシックにかかってしまう人もいました。自分自身大変勉強になったと思えるのは、英語とはいっても国によつていろんな英語があるということと言葉が通じなくてもなんとかなっちゃうものだということですね。一番困ったのは、言葉よりも何も口にしてくない人を受け入れた時ですね。ベトナムの人を受け入れたことがあったのですが、英語も日本語も言葉が通じなく、食事もしてくれないので、当時那須にあったベトナム料理屋に連れていくてあげたらやっと食べたなんてこともあります。

### ホストファミリーの現状

AFS日本協会栃木県支部  
船田千絵さん

最近は少子化の傾向も受け、一般的にホームステイよりも外国に異文化体験に行くのが主流となっています。ここ数年、地方での専業主婦の減少や価値観の違いからホームステイ受入に対する考え方もだいぶ変わってきています。現在、AFSでは33カ国からの学生が来ていますが、多様化しています。近年、欧米の学生が日本のボップカルチャーや武道に興味を持ち、多くの学生が留学に来たがっていますが、反面ホームステイ先がみつからないという事態も起きています。

最近は、留学先にお子さんを出している家庭でホストファミリーになってくれる方が増えつつあります。

受入前に、ホストファミリーになっていただく方には、受入に関する注意事項やチェックリストを用いて学

### アジアの女性は謙虚?

モンゴルの女性は気配り、礼儀、心配りというか謙虚さがありますね。また韓国の女性は男の人の前では手でさかづきを隠しながら飲むという謙虚な習慣があります。それとは逆に欧米系の人はあっさりしているというかストレートにイエス、ノーを表現するので、気楽ではありますね。変に気を遣わなくてすみますからその点では欧米系の人たちはうがいいかもしれませんね。



▲ホームステイ到着後、直後の撮影。子供達の歓迎に緊張がほぐれ思わずっこり微笑む研修員

### ゲストがきっかけづくり

ホストファミリーを引き受けたら日本の生活を体験させるためにはありのままの生活を見せてあげるのがいいですね。何かをしてあげるということではなくて、そのゲストの



▲一緒に料理すること。ホームステイに慣れるための必須条件。

外国人と一緒に楽しんじゃおうというのが一番いいのではないかと思います。そうすれば相手の人もホームシックにもからないですし、彼らがされているから、普段行かない場所へ行ったり、やらないことも一緒にすることもあると思います。あと経験から学んだのですが、つきっきりのサービスはよくないですね。彼らにも自分たちの時間を作つてあげたり、一人にさせてあげたりすることも大切だと思いますよ。

生とホスト両方に確認してもらうようにしています。あとで、ホスト側から言われるほうが留学生にはショックのようです。また、学生は育った環境も習慣も違うので、相手を知ることも大切で、自分のやり方を一方的に押し付けたりするとけんかの原因になりやすいので、なるべく留学生との交流イベントも増やしています。



▲ホストファミリーと留学生たちとの交流イベントも増やしています。

### AFS日本協会とは?

外国からの高校生の留学生の受入、また日本から外国への派遣を行っている文部科学省所管の団体です。



▲ガーナの子どもと大越さん

今回写真を提供してくれたのは、青年海外協力隊16年度3次隊として、ガーナのセントラル州アッシン・フォソにあるフランシスザビエル病院で平成17年4月から2年間、薬剤師として、活動されたときの写真を紹介してくれました。



### 餅つき！？

現地の食べ物「フーフー」を作っているところ。日本の餅つきとそっくりです！日本の餅つきと全く似たような食文化が、遠く離れたアフリカでも見られるという類似点の発見も面白いなと思いました。

※フーフー：プランテーンとキャッサバという芋のようなものを茹でて潰して丸めて辛いスープに入れて手でちぎりながら食べます。



### 井戸の前でポーズ

水汲みは村の子どもたちの毎日の仕事。朝、学校帰り、夕食前…井戸の周りに子どもたちがいないことはまずありません。ガーナでは子供たちの家事手伝いが当然で、このような重労働な井戸での水汲みも子供たちにとって重要なコミュニケーションの場になっています。

このコーナーで紹介する写真とエピソードを募集しています。  
詳しくは、協会までお問合せください。（☎028-621-0777）

### TIAトピックス

#### TIA制作 「とちぎべんりマップ」

在県外国人と県民とのコミュニケーション活動を拡大し、地域における多文化共生社会を推進するため、県域全体をカバーした情報地図と首都圏をカバーした交通一覧図をあわせた「とちぎべんりマップ」を製作しました。マップの製作にあたり、より多くの在県外国人が理解しやすいように、主にローマ字を使用するとともに、栃木県の国籍別外国人登録者の現状に即した言語を併用しました。



マップは県内市町、国際交流団体等を通じ、広く在県外国人に配布しました。

※ご希望の方は協会までご連絡ください。

#### 国際理解教育実践セミナー～参加型学習で広がる国際理解～

4月28日(土)、とちぎ国際交流センターにて「JICA国際理解教育実践セミナー～参加型で広がる国際理解～」を開催しました。

参加者は37名、学校教員、青年海外協力隊OB、国際交流団体の方など、国際理解教育に興味のある多彩なバックグラウンドをお持ちの方が参加されました。第1部では、JICA教師海外研修に参加された4名の先生（県内小中校教諭）によるカンボジアを切り口とした参加型の学習を、第2部では、栃木県内で活動を展開する開発教育ネットワークの会長（県内高校教諭）による難民切り口とした参加型学習を体験していただきました。

参加された先生からは、「国際理解という視点から作成されたアクティビティはとてもわかりやすいものであったため良い参考になりました。」「国際理解授業をJICAの方がたくさん支援していることがわかりました。」等の感想をいただきました。

いろいろな方に関わっていただけた今回のセミナー、講師の先生方や参加された先生方の様々な思い、同じ思いを感じることができました。これをきっかけとして栃木県内の国際理解教育関係者が繋がり広がってくれることを願います。

次回のJICA国際理解教育実践セミナーの開催は来年2月。昨年度参加者に加え、今年度のJICA教師海外研修参加者も加わりさらにパワーアップする予定！お楽しみに。



▲四角形を作りながら国際協力を考える



▲37名の参加者

## 「わいわい地球っ子クラブ」～ナマステ・インディア～

小学生の国際理解のためのクラブの第18回がインドをテーマに、3月10日(土)にとちぎ国際交流センターで実施された。小学校3年生～6年生の23名が参加。

この日は、インド出身のスプラマニアム・ウェルヴィジエイさんに協力をいただき、インド映画を見ながらのインドの紹介をした後、インドヨガを教わって、実際に小学生もインドヨガを行った。基本となる太陽礼拝をウェルヴィジエイさんの指導のもとで楽しく行った。最初はなかなか要領を得なかった子どもたちも最後には掛け声でパーフェクトにできるようになっていた。ヨガの後は、実際にインドの民族衣装を身にまとい写真を撮ったり、インドのヨーグルトドリンク「ラッシー」(マンゴー風味)の作り方を教わって、実際に味わってみたりして、楽しんだ。



▲ヨガを学ぶ子供たち

## 栃木県海外技術研修員帰国

栃木県が国際協力の一環として受け入れている4カ国



▲帰国直前の研修員

6名の技術研修員が3月13日(火)・14日(水)にそれぞれの国に帰国した。帰国後は、日本で学んだ技術を活かし母国発展に貢献するとともに、日本との友好の担い手となることが期待される。

## Club lycée 「クラブリセ」 ☆ネパールの女性と子どもの状況☆

高校生のための国際理解クラブ「クラブリセ」の今年度最後のミーティングが3月17日(土)にとちぎ国際交流センターで行われた。ゲストはネパール出身の白鷗大学留学生タバ・スラブさん。「ネパール女性と子どもの状況」というテーマで、フォトランゲージやビデオ、パワーポイントを用いてネパールの現状を紹介した。

また、3年生にとっては最後のミーティングということで、フリートークではタバさんの留学の動機や希望、また高校生のこれから道について語り合った。



▲ネパールの現状を説明するタバさん

### ●森戸泰光さん (エルサルバドル、陶磁器)

首都サンサルバドルの障害者施設で陶芸を教えます。益子とサンサルバドルを結ぶよう頑張ります。

### ●佐藤真利子さん (ドミニカ共和国、映像)

まずは応援してくれている家族や友人のためにも無事に元気に帰ってくること!せっかくの貴重な経験なので楽しんできます。

### ●淀川郁美さん (セネガル、日本語教師)

セネガルの首都ダカールのセンターで主に西アフリカの人たちに日本語を教えに行きます。日本語を通していろいろな人に会えるのを楽しみにしています。

★この日最後に訪問した下野新聞社では、青年海外協力隊とちぎ応援団会長の上西郎夫社長より「ぜひ初心を貫いて立派な仕事をしてください。帰国後はぜひ本県でも活躍してください。」と激励をいただきました。

栃木県からは18年度だけで、15名のボランティアが誕生し、13カ国で活躍しています。

JICA栃木デスク：松島愛実

## 国際理解への扉/道の駅国

### 今回のテーマ…「そして世界は広がった。」

3月19日(月)に70日間の語学訓練を終えた6名のJICAボランティアの皆さんが栃木県庁を訪問しました。

今回、栃木県庁を表敬訪問した6名は、青年海外協力隊とちぎ応援団による壮行会にも出席、出発に際しての思いを語ってくれました。

#### <シニア海外ボランティア>

##### ●廣田猛さん (ブルータン 地質調査)

ブルータンは国土の70パーセントが美しい森林に覆われており、国民性は優雅で優しく、寛大であるとされています。その国で道路の維持管理・新規建設のお手伝いができるることをうれしく思っております。

#### <青年海外協力隊>

##### ●入江ひとみさん (タイ・観光業)

2年間の活動でタイ側から「観光アピール」を存分に発信していただきたいと思っています。また、新たな魅力をみつけ多くの方を案内したいです。

##### ●高木亜紀さん (メキシコ・言語聴覚士)

メキシコシティから西へ420キロのミショアカン・ラビエダ市のリハビリセンターで発達遅滞児の言語評価と母親指導を行ってきます。現地の人との関わりを大切に、2年間楽しく元気で過ごしてきます。行って来ます!



▲青年海外協力隊とちぎ応援団顧問の青木とみみさん  
18年度3次隊の栃木の盛久みみさん

# TIA Information Corner

## 平成19年度国際化推進事業の助成事業募集中!!

TIAでは、栃木県における国際化をさらに推進するために、「国際化推進事業助成金」があります。

### ●対象事業

- ・一般県民に公開されること
- ・営利目的ではない
- ・県内において実施される
- ・日程と内容が具体化している
- ・宗教活動または政治活動を目的とするものではないこと

### ●申請者の資格

- ・県内にある国際交流等の団体  
(上記団体の実施委員会も可)
- (注)地方公共団体等から運営経費の補助を受けている団体は除きます。

●申請締切り 5月31日(木)

●問合せ (財)栃木県国際交流協会

## 国際理解教育ファシリテーター養成講座 参加者募集!!

国際理解を深めるためのプログラムを実践するファシリテーター（進行役・プログラムの促進者）を育成する講座（全5回）の参加者を募集します。

- 日 時 6/30(土)、7/1(日)、7/21(土)、  
7/22(日)、11/10(土)  
10:00~16:00
- 場 所 鹿沼市菊沢コミュニティセンター  
(鹿沼市御成橋2-2197-1)
- 講 師 桜井高志氏（桜井・法貴グループ教育研究所代表）
- 対 象 国際理解教育に関心のある方  
(全5回の講座を受講可能な方)
- 定 員 30名(先着)
- 参 加 費 無料
- 募 集 期間 5/15(火)~6/20(水)

※お問い合わせはTIAまでお電話で  
☎028-621-0777

## 日本語を教えよう!ステップ1 受講者募集!!

地域に住む外国人の方に日本語を教えてみませんか？外国語を使わずに日本語を教える方法をわかりやすく、楽しく、学べる講座です。

- 日 時 6/28~8/9 (8/2を除く)  
毎週木曜日 全6回  
13:00~16:00
- 場 所 真岡市公民館真岡西分館  
(真岡西中学校すぐそば)
- 講 師 白井佳子氏（フリーアナウンサー、日本語教師）
- 対 象 外国人にボランティアで日本語を教える意思のある方、または教えたばかりの方
- 定 員 30名(先着)
- 参 加 費 無料
- 託 児 無料(要予約)
- 募 集 期間 6/1(金)~6/22(金)
- 問 合 せ (財)栃木県国際交流協会

## 栃木県国際交流協会 事業案内 Tochigi International Association(TIA)

～とちぎ国際交流センターの交流ラウンジ・図書閲覧室は  
どなたでも気軽にご利用できます～

### ■相談事業

在県外国人をはじめ県民の皆さまの国際交流・国際協力に関する相談に専門の相談員が応対

### ■機関紙の発行・情報提供

TIAニュース「やあ！」や在県外国人向け外国語情報紙の発行  
とちぎ国際交流センター内には情報交換のためのメッセージボードの設置

### ■各種イベント・講演会

国際交流促進や国際協力意識高揚を目的とした各種イベントや講演会の実施

### ■TIA協力者バンク

ホストファミリーバンク、インストラクターバンク、トランスレーターバンクの運営

### ■とちぎコミュニケーションネットワーク（TCN）

在県外国人のネットワーク。イベント等の情報提供、国際理解講座等への協力  
＊この他さまざまな事業を行っておりますので、お気軽にお問合せください。  
＊とちぎ国際交流センターの交流ラウンジ・図書閲覧室はどなたでも気軽にご利用できます。会議室等の施設利用についてはご相談ください。

## 新規賛助会員の方々

個人：大塚幹夫様

団体：宇都宮SGGクラブ様

～ご入会ありがとうございます～

財団法人栃木県国際交流協会は、特定公益増進法人（寄付金の損金算入等の課税特別措置）の認定を受けています。当協会の事業にご賛同くださる各企業、団体等からのご出捐をお願いいたします。

## 人事異動のお知らせ

石川事務局次長兼総務企画課長が県に戻り、代わりに佐藤康夫が事務局次長兼総務企画課長に交替。

臨時補助員が杉本真梨から増渕あきらに交替。

## 第83回定期演奏会

# 栃木県交響楽団

2007年6月17日(日)午後2時開演(1時30分開場)宇都宮市文化会館大ホール



### 〈演奏曲目〉

- ・ブラームス  
大学祝典序曲
- ・ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲
- ・交響曲 第2番



〈チェロ〉  
宮田 大  
〈ヴァイオリン〉  
齋藤 眑思

全自由席 ¥1,500円(前売1,200円) 電子チケットびあ  
お問い合わせ 栃木県交響楽団 ☎028-643-5288



日本は原則に配合し再生紙と大豆油インキを使用しています。

## TIA ご案内図



編集・発行 財団法人栃木県国際交流協会  
住 所 〒320-0033 宇都宮市本町9-14 とちぎ国際交流センター内  
T E L 028-621-0777 (代表) 028-627-3399 (相談専用)  
F A X 028-621-0951  
業務時間 8:30~17:15  
休 館 日 日曜・月曜・祝祭日及び12月29日から1月3日